



# Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite ガイド

---

Sun Microsystems, Inc.  
4150 Network Circle  
Santa Clara, CA 95054  
U.S.A.650-960-1300

Part No: 817-4847-10  
2003 年 10 月, Revision A

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面によ事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun, Sun Microsystems, the Sun logo, Solstice DiskSuite, iPlanet, and Solaris are trademarks, registered trademarks, or service marks of Sun Microsystems, Inc. in the U.S. and other countries. すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されません。

DtComboBox ウィジェットと DtSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.) Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

原典: *Sun Cluster 3.1 Data Service for Oracle E-Business Suite Guide*

Part No: 817-3245-10

Revision A



040413@8606



# 目次

---

<b>Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite</b> のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成	5
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の概要	6
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画	7
構成に関する制限事項	7
構成に関する要件	9
Oracle E-Business Suite のインストールと構成	13
▼ Oracle E-Business Suite のインストールと構成方法	13
Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認	17
▼ Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方法	17
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージのインストール	18
▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする	19
▼ <code>scinstall</code> ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Oracle E- Business Suite パッケージをインストールする	20
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成	21
▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法	21
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認	27
▼ Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方 法	27
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターの概要	28
リソースプロパティ	28
プローブアルゴリズムと機能	28
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグ	30
▼ Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグを有効にする方法	30



# Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成

表 1-1 に、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行ってください。

表 1-1 作業マップ: Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成

作業	参照先
インストールを計画する	6 ページの「Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の概要」 7 ページの「Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画」
Oracle E-Business Suite をインストールして構成する	13 ページの「Oracle E-Business Suite のインストールと構成方法」
インストールと構成を確認する	17 ページの「Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方法」
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする	20 ページの「scinstall ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする」
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite を登録して構成する	21 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法」
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成を確認する	27 ページの「Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方法」

表 1-1 作業マップ : Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成 (続き)

作業	参照先
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の障害モニターを理解する	28 ページの「Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターの概要」
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite をデバッグする	30 ページの「Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグ」

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の概要

Oracle E-Business Suite は、統一されたオープンなアーキテクチャーを使用して、ビジネスプロセスを効率よく管理できるフルセットのビジネスアプリケーションです。このアーキテクチャーは、Oracle 製品をサポートする多層型分散コンピューティングのためのフレームワークです。Oracle E-Business Suite はデータベース層、アプリケーション層、およびデスクトップ層で構成されます。これらの層は、論理上のグループに従って分散させることができます。また、1つのノードまたは複数のノード上でグループとしてまとめることができます。

表 1-2 Oracle E-Business Suite のアーキテクチャー

デスクトップ層	アプリケーション層	データベース層
	Web Server	
	Forms Server	
Web ブラウザ	Concurrent Server	Database Server
	Reports Server	
	Admin Server	
	Discoverer Server	

Oracle E-Business Suite は分散性があるので、すべてのアプリケーション層とデータベース層を Sun Cluster で管理する場合は、複数の Sun Cluster Data Service が必要です。

次の表に、Oracle E-Business Suite の各コンポーネントと、保護を提供する適切な Sun Cluster Data Service を示します。

表 1-3 コンポーネントの保護

コンポーネント	コンポーネントを保護するデータサービス
Database Server	Sun Cluster HA for Oracle (データベースおよびリスナー)
Web Server	Sun Cluster HA for Apache
Forms Server	Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite
Concurrent Manager Server	Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite
Concurrent Manager Listener	Sun Cluster HA for Oracle (リスナー)
Reports Server	Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite

Admin Server と Discoverer Server は、通常は Sun Cluster 内では稼働しないので、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite による保護は行われません。

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画について説明します。

### 構成に関する制限事項



---

注意 - 次の制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

---

ここで示す制限事項を考慮して、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画を行なってください。ここでは、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite にのみ適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、『ご使用にあたって』を参照してください。

- **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** データサービスの配備 - Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスは、Forms Server、Concurrent Manager Server、および Reports Server という 3 つのコンポーネントで構成され

ます。これらのコンポーネントは、Rapid Wizard Installation ツール (rapidwiz) を使用してインストールします。

Oracle E-Business Suite は rapidwiz を使用して、single-node、two-node または multi-node 方式でインストールできます。

single-node 方式でインストールすると、単一ノードに Database Server、Web Server、Forms Server、Concurrent Manager Server、と Reports Server がインストールされます。

two-node 方式でインストールすると、1つのノードに Database Server、Concurrent Manager Server、および Reports Server がインストールされ、他方のノードに Forms Server と Web Server がインストールされます。

multi-node 方式でインストールする場合は、最大 5 ノードを任意に組み合わせ、Database Server、Web Server、Forms Server、Concurrent Manager Server、および Reports Server のインストール先を指定できます。

- **Database Server** — rapidwiz を使用すると、単一データベースインスタンスとしてインストールされます。Database Server は、Sun Cluster でのフェイルオーバーサービスとして、Sun Cluster HA for Oracle に管理させる必要があります。
- **Web Server** — rapidwiz を使用すると、Web Server (Apache) がノードにインストールされます。Sun Cluster で使用する場合、Web Server は Sun Cluster HA for Apache によって管理されます。Sun Cluster 内のフェイルオーバーサービスまたはスケラブルサービスとして配備できます。
- **Forms Server、Concurrent Manager Server、および Reports Server** — rapidwiz を使用してどのようにインストールするかによって、Forms Server、Concurrent Manager Server、および Reports Server を同一ノードにインストールすることも、異なるノードにインストールすることもできます。ただし、これらすべてのコンポーネントを Sun Cluster 内のフェイルオーバーサービスとして管理できるのは、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite だけです。
- **Oracle E-Business Suite** をクラスタファイルシステムにインストールする — Rapid Install を使用して Oracle E-Business Suite をインストールする場合、次の制限事項を守る必要があります。

次の表に、マウントポイントと使用できるファイルシステムのタイプを示します。ローカル、フェイルオーバーファイルシステム (FFS)、または広域ファイルシステム (GFS) があります。

表 1-4 データベース層

マウントポイント	ファイルシステムのタイプ
<dbname>DATA	FFS または GFS
<dbname>DB	ローカル、FFS、または GFS
<dbname>ORA	ローカル、FFS、または GFS

表 1-5 アプリケーション層

マウントポイント	ファイルシステムのタイプ
<dbname>COMN_TOP	FFS または GFS
<dbname>APPL_TOP	FFS または GFS
<dbname>APPLCSF	FFS または GFS

注 - 広域ファイルシステムをマウントする場合は /global という接頭辞を指定し、フェイルオーバーファイルシステムをマウントする場合は /local という接頭辞を指定するようにしてください。必須ではありませんが、こうするのが最も良い方法とされています。

## 構成に関する要件



注意 - 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで示す要件に従って、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の計画を行ってください。これらの要件は、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite にのみ適用されます。Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。

- **Oracle E-Business Suite** コンポーネントと依存関係 — Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスは、Oracle E-Business Suite インスタンスとそれぞれのコンポーネントを保護するように構成できます。以下、各コンポーネントとコンポーネント間の依存関係について簡単に説明します。

表 1-6 Oracle E-Business Suite と依存関係 (→ 記号で示す)

コンポーネント	説明
Forms Server	→ SUNW.HAStoragePlus リソース SUNW.HAStoragePlus リソースは、Oracle E-Business Suite のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Oracle E-Business Suite が起動しないようにします。

表 1-6 Oracle E-Business Suite と依存関係 (→ 記号で示す) (続き)

コンポーネント	説明
Concurrent Manager Listener	→ <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース  <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソースは、Oracle E-Business Suite のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Oracle E-Business Suite が起動しないようにします。
Concurrent Manager Server	→ <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース → <i>Concurrent Manager Listener</i> リソース → <i>Oracle Database Server</i> リソース  <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソースは、Oracle E-Business Suite のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Oracle E-Business Suite が起動しないようにします。
Reports Server	→ <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソース  <i>SUNW.HAStoragePlus</i> リソースは、Oracle E-Business Suite のファイルシステムのマウントポイントを管理し、ファイルシステムがマウントされるまでは Oracle E-Business Suite が起動しないようにします。

上記のとおり、Concurrent Manager Server は Oracle Database Server に依存します。Rapid Install で *single-node* または *two-node* のインストール方式を選択した場合、Database Server と Concurrent Manager Server は同じノード (リソースグループ) に組み込まれます。

ただし、*multi-node* を選択した場合は、Database Server と Concurrent Manager Server が異なるノード (リソースグループ) にインストールされる場合があります。その場合は上記の依存関係を維持するために、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスが Concurrent Manager Server と Database Server 間の起動/再起動を管理します。

各 Oracle E-Business Suite コンポーネントは、*/opt/SUNWscebs/xxx/util* に構成/登録ファイルがあります。xxx は個々の Oracle E-Business Suite コンポーネントを表す 3 文字の略語です。これらのファイルによって、Sun Cluster に Oracle E-Business Suite コンポーネントを登録できます。

これらのファイル内では、該当する依存関係がすでに適用されています。

例 1-1 Sun Cluster 用の Oracle E-Business Suite 構成/登録ファイル

```
# cd /opt/SUNWscebs
#
# ls -l cmg/util
total 16
-rwxr-xr-x  1 root    sys      1410 Jun 11 17:17 cmg_config
-rwxr-xr-x  1 root    sys      840 Jun 11 17:17 cmg_register
```

例 1-1 Sun Cluster 用の Oracle E-Business Suite 構成/登録ファイル (続き)

```

-rwxr-xr-x  1 root      sys          4105 Jun 11 17:17 copy_env
# ls -l frm/util
total 4
-rwxr-xr-x  1 root      sys           701 Jun 11 17:17 frm_config
-rwxr-xr-x  1 root      sys           619 Jun 11 17:17 frm_register
# ls -l rep/util
total 4
-rwxr-xr-x  1 root      sys           701 Jun 11 17:17 rep_config
-rwxr-xr-x  1 root      sys           619 Jun 11 17:17 rep_register
# more cmg/util/cmg*
::::::::::::
cmg_config
::::::::::::
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# This file will be sourced in by cmg_register and the parameters
# listed below will be used.
#
# These parameters can be customized in (key=value) form
#
#         RS - name of the resource for the application
#         RG - name of the resource group containing RS
#         HAS_RS - name of the HAStoragePlus SC resource
#         LSR_RS - name of the Concurrent Manager Listener SC resource
#         CON_HOST - name of the Concurrent Manager logical hostname
#         CON_COMNTOP - name of the Concurrent Manager COMMON_TOP directory
#         CON_APPUSER - name of the Concurrent Manager application userid
#         APP_SID - name of the application SID
#         APPS_PASSWD - name of the password for the APPS userid
#         ORACLE_HOME - name of the Oracle home directory
#         CON_LLIMIT - Minimum number of Concurrent Managers
#                       represented as a percentage i.e. 70 = 70%
#                       (Note - Omit the % sign)
#         MODE - Specifies if Oracle E-Business Suite is running
#                32|64-bit code and if the LD_PRELOAD pathname
#                will have a symlink in /usr/lib/secure
#                Default value = 32/Y
#                (Note - Refer to the Sun Cluster 3.1 Data Service
#                for Oracle E-Business Suite for more information)
(日本語)
# このファイルは cmg_register によって有効化され、以下のパラメタ
# が使用されます。
#
# これらのパラメタは (キー=値) 形式でカスタマイズできます。
#
#         RS - アプリケーションのリソース名
#         RG - RS を含むリソースグループ名
#         HAS_RS - HAStoragePlus SC リソース名
#         LSR_RS - Concurrent Manager Listener SC リソース名
#         CON_HOST - Concurrent Manager 論理ホスト名
#         CON_COMNTOP - Concurrent Manager COMMON_TOP ディレクトリ名

```

例 1-1 Sun Cluster 用の Oracle E-Business Suite 構成/登録ファイル (続き)

```

# CON_APPSUSER - Concurrent Manager アプリケーションユーザー ID 名
# APP_SID - アプリケーション SID の名前
# APPS_PASSWD - APPS ユーザー ID のパスワード名
# ORACLE_HOME - Oracle ホームディレクトリ名
# CON_LIMIT - パーセンテージで表される Concurrent Managers の最小値
#           例 : 70 = 70%
#           (注 - % 記号は省略)
#           MODE - Oracle E-Business Suite が 32|64-bit コードを
#                 実行している場合、また LD_PRELOAD パス名が
#                 /usr/lib/secure にシンボリックリンクを持つ場合に指定
#                 初期値 = 32/Y
#           (注 - 詳細は『 Sun Cluster 3.1 Data Service
#                 for Oracle E-Business Suite』を参照)
#
#
RS=
RG=
HAS_RS=
LSR_RS=
CON_HOST=
CON_COMNTOP=
CON_APPSUSER=
APP_SID=
APPS_PASSWD=
ORACLE_HOME=
CON_LIMIT=
MODE=32/Y
:::::::::::::
cmg_register
:::::::::::::
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#

. `dirname $0`/cmg_config

scrgadm -a -j $RS -g $RG -t SUNW.gds \
-x Start_command="/opt/SUNWscebs/cmg/bin/start_cmg \
-R $RS -G $RG -C $CON_COMNTOP -U $CON_APPSUSER -P $APPS_PASSWD \
-S $APP_SID -H $CON_HOST -O $ORACLE_HOME -L $CON_LIMIT -M $MODE" \
-x Stop_command="/opt/SUNWscebs/cmg/bin/stop_cmg \
-R $RS -G $RG -C $CON_COMNTOP -U $CON_APPSUSER -P $APPS_PASSWD \
-S $APP_SID -H $CON_HOST -O $ORACLE_HOME -L $CON_LIMIT -M $MODE" \
-x Probe_command="/opt/SUNWscebs/cmg/bin/probe_cmg \
-R $RS -G $RG -C $CON_COMNTOP -U $CON_APPSUSER -P $APPS_PASSWD \
-S $APP_SID -H $CON_HOST -O $ORACLE_HOME -L $CON_LIMIT -M $MODE" \
-y Port_list=23/tcp -y Network_resources_used=$LSR_RS \
-x Stop_signal=9 \
-y Resource_dependencies=$HAS_RS,$LSR_RS
#

```

---

# Oracle E-Business Suite のインストールと構成

ここでは Oracle E-Business Suite をインストールして構成する手順について説明します。

## ▼ Oracle E-Business Suite のインストールと構成方法

次の手順で、Oracle E-Business Suite をインストールして構成します。

Oracle E-Business Suite の配備に関するこのあとの説明では、特定の値が参照されます。以降の例で使用する値は、次のとおりです。

- `<dbname>` - PROD
- `<dbname>COMN_TOP` - /global/mnt10/d01
- `<dbname>CON_APPSUSER` - ebs
- `<Logical Hostname>` - lhost1

---

注 - ここでは、Oracle の『*Oracle Applications, Installing Oracle Applications*』に従って、Oracle E-Business Suite をインストールします。

---

1. **Sun Cluster** における **Oracle E-Business Suite** の配備方法を決定 - **Oracle E-Business Suite** をどのように配備するかを決定する必要があります。
  - a. Oracle の高速インストールプログラム `rapidwiz` で使用するインストール方法を決定します。
  - b. Oracle E-Business Suite で使用するクラスタファイルシステムを決定します。
2. **Oracle E-Business Suite** に対応する論理ホスト名が使用可能であることの確認 - `rapidwiz` を使用して **Oracle E-Business Suite** をどのように配備するかに応じて、`rapidwiz` で使用する各論理ホスト名が使用可能であることを確認する必要があります。

---

注 - 論理ホスト名を利用するには、21 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法」の手順 1 から 9 を完了する必要があります。

---

3. **Oracle E-Business Suite** クラスタファイルシステムのマウント - **Sun Cluster** での **Oracle E-Business Suite** の配備方法を決定してから、クラスタファイルシステムがマウントされていることを確認する必要があります。

---

注 - Oracle E-Business Suite インスタンスにフェイルオーバーファイルシステムを使用させる場合は、手動でファイルシステムをマウントする必要があります。

---

4. **rapidwiz** を使用した **Oracle E-Business Suite** のインストール - **Oracle E-Business Suite** は広域ファイルシステムにインストールすることを推奨します。ローカルファイルシステムにソフトウェアをインストールした場合と、クラスタファイルシステムにインストールした場合のメリットとデメリットについては、『*Sun Cluster 3.1 データサービスのインストールと構成*』の 3 ページ、「アプリケーションバイナリの格納先の決定」を参照してください。
- rapidwiz** を実行して、選択した Oracle E-Business Suite の配備方式 (single-node、two-node、または multi-node) に対応する config.txt ファイルを作成します。
  - Oracle E-Business Suite 用の config.txt ファイル (たとえば、/var/tmp/config.txt) を保存します。
  - config.txt ファイルを作成するときに使用した論理ホスト名ごとに、-servername パラメータを使用して **rapidwiz** を実行します。

```
# rapidwiz -servername <Logical Hostname>
```

---

注 - **rapidwiz** を使用して Concurrent Manager をインストールしてから、Concurrent Manager Listener の listener.ora ファイルを変更して Logical Hostname で待機できるようにする必要があります。次の手順を完了してから、**rapidwiz** の処理を続け、Oracle E-Business Suite の Web Server と Forms Server をインストールする必要があります。

---

- Concurrent Manager Listener の listener.ora ファイルを変更して、Logical Hostname が認識されるようにします。

---

注 - **grep** コマンドの出力は、後続コマンドへの入力として使用されます。通常は、既知のディレクトリやファイル名を後続コマンドに追加して、さらに情報を取得したり、単純に編集を行ったりします。

---

```
# grep PROD.CON_COMNTOP /var/tmp/config.txt
PROD.CON_COMNTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomn
#
# su ebs
# cd /global/mnt10/d01/oracle/prodcomn/admin/scripts/PROD
#
# ./adalnctl.sh stop
# ./adcmctl.sh stop apps/apps
#
# grep ORA_ENVFILE= adalnctl.sh
ORA_ENVFILE="/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/PROD.env"
#
```

```

# grep TNS_ADMIN= /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/PROD.env
TNS_ADMIN="/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/network/admin/PROD"
#
# vi /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/network/admin/PROD/listener.ora
#
      Add LD_PRELOAD_32=/usr/lib/secure/libloghost.so.1
      and LHOSTNAME=<Logical Hostname>

      to the envs= parameter for the SID_NAME=FNDSM_<SID> enrt

```

---

注 - 次に、変更後の listener.ora ファイルの内容を示します。  
listener.ora の変更後に autoconfig を使用した場合は、autoconfig に  
よって変更が取り消されてしまうので、変更を適用し直す必要があります。再  
適用が必要になります。次のテキストは、ページに収まるように編集されてい  
ます。

---

```

# more /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/network/admin/PROD/listener.ora
# $Header: admk80ln_ux.sql 115.7 2002/05/17 10:10:59 pkm ship      $
# LISTENER.ORA For Oracle Applications
# This file is automatically generated
# (日本語)
# Oracle アプリケーション用 LISTENER.ORA
# このファイルは自動生成されます。
APPS_PROD =
  (ADDRESS_LIST =
    (ADDRESS= (PROTOCOL= TCP) (Host= lhost1) (Port= 1626))
  )
SID_LIST_APPS_PROD =
  (SID_LIST =
    ( SID_DESC = ( SID_NAME = FNDSM_PROD )
      ( ORACLE_HOME = /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6 )
      ( PROGRAM = /global/mnt10/d01/oracle/prodappl/fnd/11.5.0/bin/FNDSM )
      ( envs='LD_PRELOAD_32=/usr/lib/secure/libloghost.so.1, \
              LHOSTNAME=lhost1, \
              MYAPPSORA=/global/mnt10/d01/oracle/prodappl/APPSORA.env, \
              DISPLAY=clusterix1:0.0,PATH=/usr/bin:/usr/ccs/bin:/bin, \
              FNDSM_SCRIPT=/global/mnt10/d01/oracle/prodappl/fnd/11.5.0/bin/gsmstart.sh' )
    )
    ( SID_DESC = ( SID_NAME = FNDFS )
      ( ORACLE_HOME = /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6 )
      ( PROGRAM = /global/mnt10/d01/oracle/prodappl/fnd/11.5.0/bin/FNDFS )
      ( envs='EPC_DISABLED=TRUE,NLS_LANG=AMERICAN_AMERICA.US7ASCII, \
              LD_LIBRARY_PATH=/usr/dt/lib:/usr/openwin/lib: \
              /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/lib, \
              SHLIB_PATH=/usr/lib:/usr/dt/lib:/usr/openwin/lib: \
              /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/lib, \
              LIBPATH=/usr/dt/lib:/usr/openwin/lib: \
              /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/lib' )
    )
  )
STARTUP_WAIT_TIME_APPS_PROD = 0

```

```
CONNECT_TIMEOUT_APPS_PROD = 10
TRACE_LEVEL_APPS_PROD = OFF
LOG_DIRECTORY_APPS_PROD = /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/network/admin
LOG_FILE_APPS_PROD = APPS_PROD
TRACE_DIRECTORY_APPS_PROD = /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/network/admin
TRACE_FILE_APPS_PROD = APPS_PROD
```

- e. libloghost.so.1 用のシンボリックリンクを作成します。

Oracle E-Business Suite が Logical Hostname を使用して動作するように、ホスト名の取得時にシステムコールに割り込み、Logical Hostname を返すプログラム libloghost.so.1 が用意されています。

---

注 – システムコールへの割り込みが発生するのは、Concurrent Manager Server が起動または停止している場合に Concurrent Manager Listener が稼働しているときだけです。

---

libloghost.so.1 プログラムが組み込まれているライブラリは、システムコールのたびに警告メッセージが出ないように、セキュアライブラリに配置する必要があります。

ライブラリをセキュア ディレクトリに配置するには、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスを提供する Sun Cluster 内の全ノード上で次のシンボリックリンクを作成する必要があります。

```
# cd /usr/lib/secure
#
# ln -s /opt/SUNWscebs/cmglib/32/libloghost.so.1 libloghost.so.1
```

下記をセキュアライブラリから実行しない場合は、

```
/opt/SUNWscebs/cmglib/32/libloghost.so.1
```

次の作業が必要です。

前の手順 (手順 4d) を変更して、

```
/usr/lib/secure/libloghost.so.1
```

を下記に置き換えます。

```
/opt/SUNWscebs/cmglib/32/libloghost.so.1。たとえば、次のようにします。
```

```
LD_PRELOAD_32=/opt/SUNWscebs/cmglib/32/libloghost.so.1
```

さらに、Concurrent Manager リソースを登録するときに、セキュア ライブラリを使用しないことを指定する必要があります。これについては、21 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法」の手順 13 で説明します。

セキュアライブラリの外部で  
/opt/SUNWscebs/cmg/lib/32/libloghost.so.1 を実行すると、次のような警告メッセージが表示されますが、無視してかまいません。

```
ld.so.1: <cmd>: warning: /opt/SUNWscebs/cmg/lib/32/libloghost.so.1:
open failed: illegal insecure pathname
```

- f. Sun Cluster の論理ホスト名ではなく物理ホスト名を接頭辞として使用し、<Logical\_hostname>\_<dbname>.bdb ファイルをコピーします。クライアントにアクセスするにはこのファイルが必要です。次の例の論理ホスト名は lhost1 です。物理的な Sun Cluster ノードは clusterix1 と clusterix2 です。

```
# grep PROD.FRM_APPLTOP= /var/tmp/config.txt
PROD.FRM_APPLTOP=/global/mnt11/d01/oracle/prodappl
#
# cd /global/mnt11/d01/oracle/prodappl/fnd/11.5.0/secure
#
# cp lhost1_prod.dbc clusterix1_prod.dbc
# cp lhost1_prod.dbc clusterix2_prod.dbc
```

---

## Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認

ここでは、インストールと構成を確認する手順について説明します。

### ▼ Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方法

次の手順でインストールと構成を確認します。データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションの可用性が高いかどうかを確認することはできません。

---

注 – Oracle E-Business Suite のインストールと構成を確認する前に、論理ホスト名とファイルシステムがマウントされていることを確認します。21 ページの「フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法」の手順 1 から 9 を完了する必要があります。

---

---

注 – ここでは、Oracle の『*Oracle Applications, Installing Oracle Applications*』に従って、Oracle E-Business Suite クライアントをインストールします。さらに、Oracle E-Business Suite が起動していることを確認する必要があります。

---

- **Windows Client** を使用して、クライアントから **Oracle E-Business Suite** にアクセスできるかどうかをテストします。

`http://<logical_hostname>/8000/OA_HTML/US/ICXINDEX.htm`

Userid/Password `sysadmin/sysadmin`

次に、「**Requests**」をダブルクリックします。

次に、「**Run**」をダブルクリックします。

「**Single requests**」で「**OK**」を選択します。

名前フィールドにアクティブユーザーを入力します。

「**OK**」を選択して要求をサブミットします。

「Active Users」が「Completed」になるまで「**Refresh Data**」をクリックします。

「**View output**」をクリックします。

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージのインストール

Sun Cluster の初回のインストール時に、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールしなかった場合は、次の手順でパッケージをインストールします。Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする各クラスタノードで、この手順を実行します。この手順を実行するには、Sun Cluster Agents CD-ROM が必要です。

複数のデータサービスを同時にインストールする場合は、『*Sun Cluster 3.1 10/03* ソフトウェアのインストール』の「ソフトウェアのインストール」に記載されている手順を実行してください。

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージは、次のどちらかのインストールツールを使用してインストールします。

- Web Start プログラム
- `scinstall` ユーティリティ

---

注 – Web Start プログラムは、Sun Cluster 3.1 Data Services 10/03 より前のリリースでは利用できません。

---

## ▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) のどちらでも実行できます。作業の内容と順序は、CLI でも GUI でも同様です。Web Start プログラムの詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

1. **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** パッケージをインストールするクラスタノードで、スーパーユーザーになります。
2. (省略可能) GUI を使用して **Web Start** プログラムを実行する場合は、**DISPLAY** 環境変数を設定しておく必要があります。
3. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** をロードします。  
ボリューム管理デーモン `vold(1M)` が実行され、CD-ROM デバイスを管理するように構成されている場合、CD-ROM は `/cdrom/scdataservices_3_1_vb` ディレクトリに自動的にマウントされます。
4. **CD-ROM** の **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** コンポーネントディレクトリに切り替えます。  
Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービス用の Web Start プログラムはこのディレクトリにあります。  

```
# cd /cdrom/scdataservices_3_1_vb/components/SunCluster_HA_EBS_3.1
```
5. **Web Start** プログラムを起動します。  

```
# ./installer
```
6. プロンプトに対して、インストールのタイプを選択します。
  - C ロケールだけをインストールする場合は、「一般」を選択します。

- その他のロケールをインストールする場合は、「カスタム」を選択します。
- 7. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** パッケージをインストールします。  
インストールが完了すると、インストールの概要情報が表示されます。この情報によって、インストール中に **Web Start** プログラムが作成したログを確認できます。これらのログは、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあります。
- 8. **Web Start** プログラムを終了します。
- 9. **CD-ROM** ドライブから **Sun Cluster Agents CD-ROM** を取り出します。
  - a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上には存在しないディレクトリに切り替えます。
  - b. **CD-ROM** を取り出します。

```
# eject cdrom
```

## ▼ `scinstall` ユーティリティを使用して Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする

この手順を使用して、**Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** パッケージをインストールします。この手順を実行するには、**Sun Cluster Agents CD-ROM** が必要です。この手順は、**Sun Cluster** の初回のインストール時にデータサービスパッケージをインストールしなかった場合を想定しています。

**Sun Cluster** の初回のインストール時に **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** パッケージをインストールした場合は、21 ページの「**Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** の登録と構成」に進んでください。

それ以外の場合は、この手順を使用して **Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** パッケージをインストールしてください。この作業は、**Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite** データサービスを実行できるすべてのノードで行います。

1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Cluster Agents CD-ROM** を挿入します。
2. オプションを指定しないで `scinstall` ユーティリティを実行します。  
`scinstall` ユーティリティが対話型モードで起動します。
3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。  
`scinstall` ユーティリティにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
4. **Sun Cluster Agents CD-ROM** のパスを指定します。

ユーティリティーはこの CD をデータサービス CD-ROM として示します。

5. インストールするデータサービスを指定します。  
選択したデータサービスが `scinstall` ユーティリティーによって示され、この選択内容の確認が求められます。
6. `scinstall` ユーティリティーを終了します。
7. ドライブから CD を取り出します。

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成

ここでは Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の構成手順について説明します。

### ▼ フェイルオーバーサービスとしての Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite の登録と構成方法

次の手順で、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite をフェイルオーバーデータサービスとして構成します。この手順は、Sun Cluster の初期インストール時にデータサービスパッケージをインストールしている場合を想定しています。

Sun Cluster のインストール時に Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite をインストールしていない場合は、20 ページの「`scinstall` ユーティリティーを使用して Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite パッケージをインストールする」へ進んでください。

それ以外の場合は、次の手順で、フェイルオーバーサービスとして Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite データサービスを構成します。

---

注 - `rapidwiz` を使用して Oracle E-Business Suite をどのようにインストールしたかに応じて、次の手順の一部を繰り返す必要があります。たとえば、`two-node` 方式でインストールした場合は、2つのフェイルオーバーリソースグループ (手順6) のほかに、別々のリソースグループに `i SUNW.HASStoragePlus` (手順7) リソースと論理ホスト名 (手順8) リソースを追加する必要があります。

---

1. **Oracle E-Business Suite** のホストとなるクラスタノードの1つで、スーパーユーザーになります。

2. **SUNW.gds** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.gds
```

3. **SUNW.HAStoragePlus** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.HAStoragePlus
```

4. **SUNW.oracle\_server** というリソースタイプと **SUNW.oracle\_listener** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.oracle_server
# scrgadm -a -t SUNW.oracle_listener
```

5. **SUNW.apache** というリソースタイプを登録します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.apache
```

6. フェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group
```

7. **Oracle E-Business Suite** ディスク記憶装置に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j Oracle E-Business Suite-has-resource \
-g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group \
-t SUNW.HAStoragePlus \
-x FilesystemMountPoints=Oracle E-Business Suite- instance-mount-points
```

8. **Oracle E-Business Suite** 論理ホスト名に対応するリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -L -j Oracle E-Business Suite-lh-resource \
-g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group \
-l1 Oracle E-Business Suite-logical-hostname
```

9. **Oracle E-Business Suite** ディスク記憶装置と 論理ホスト名のリソースが組み込まれたフェイルオーバーリソースグループを有効にします。

```
# scswitch -Z -g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group
```

10. **Oracle E-Business Suite Oracle** データベースに対応するリソースを作成します。

---

注 – Sun Cluster HA for Oracle の詳細は、『Sun Cluster 3.1 データサービスのインストールと構成』を参照してください。

---

```
# grep PROD.DBS_ORA816 /var/tmp/config.txt
PROD.DBS_ORA816=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7
#
# scrgadm -a -j Oracle E-Business Suite-ORACLE-resource \
-t SUNW.oracle_server \
-g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group \
-x Connect_string=apps/apps -x ORACLE_SID=PROD \
-x ORACLE_HOME=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7 \
-x Alert_log_file=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7/ \
```

```
admin/PROD/bdump/alert_PROD
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-ORACLE-resource
```

## 11. Oracle E-Business Suite Oracle リスナーに対応するリソースを作成します。

---

注 – Sun Cluster HA for Oracle の詳細は、『Sun Cluster 3.1 データサービスのインストールと構成』を参照してください。

---

---

注 – 次に、copy\_env スクリプトを使用して PROD.env ファイルを PROD\_ha.env にコピーしてフォーマットした例を示します。このファイルは、あとで Oracle リスナーリソースの User\_env 拡張プロパティで使用されます。

---

```
# grep PROD.DBS_ORA816= /var/tmp/config.txt
PROD.DBS_ORA816=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7
#
# cd /opt/SUNWscebs/cm/Util
#
# ./copy_env /global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7 PROD
#
# scrgadm -a -j Oracle E-Business Suite-ORALSR-resource \
-t SUNW.oracle_listener \
-g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group\
-x Listener_name=PROD\
-x ORACLE_HOME=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7 \
-x User_env=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7/PROD_ha.env
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-ORALSR-resource
```

## 12. Oracle E-Business Suite Concurrent Manager リスナー に対応するリソースを作成します。

---

注 – 次に、copy\_env スクリプトを使用して PROD.env ファイルを PROD\_ha.env にコピーしてフォーマットした例を示します。このファイルは、あとで Concurrent Manager リスナーリソースの User\_env 拡張プロパティ内で使用されます。

---

```
# grep PROD.CON_ORA806= /var/tmp/config.txt
PROD.CON_ORA806=/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6
#
# cd /opt/SUNWscebs/cm/Util
#
# ./copy_env /global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6 PROD
#
# scrgadm -a -j Oracle E-Business Suite-CMGLSR-resource \
```

```

-t SUNW.oracle_listener \
-x Listener_name=APPS_PROD\
-x ORACLE_HOME=/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6 \
-x User_env=/global/mnt10/d01/oracle/prodora/8.0.6/PROD_ha.env
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-CMGLSR-resource

```

### 13. Oracle E-Business Suite Concurrent Manager サーバーに対応するリソースを作成します。

```

# grep PROD.CON_COMNTOPTOP /var/tmp/config.txt
PROD.CON_COMNTOPTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomn      <- CON_COMNTOPTOP
#
# grep PROD.DBS_ORA816= /var/tmp/config.txt
PROD.DBS_ORA816=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7    <- ORACLE_HOME
#
# cd /opt/SUNWsebs/cmgl/util

```

コメントに従って cmg\_config ファイルを編集します。

# これらのパラメータは (キー=値) 形式でカスタマイズできます。

```

#
#           RS - アプリケーションのリソース名
#           RG - RS を含むリソースグループ名
#           HAS_RS - HASStoragePlus SC リソース名
#           LSR_RS - Concurrent Manager Listener SC リソース名
#           CON_HOST - Concurrent Manager 論理ホスト名
#           CON_COMNTOPTOP - Concurrent Manager COMMON_TOP ディレクトリ名
#           CON_APPUSER - Concurrent Manager アプリケーションユーザー ID 名
#           APP_SID - アプリケーション SID の名前
#           APPS_PASSWD - APPS ユーザー ID のパスワード名
#           ORACLE_HOME - Oracle ホームディレクトリ名
#           CON_LIMIT - パーセンテージで表される Concurrent Managers の最小値
#                   例 : 70 = 70%
#                   (注 - % 記号は省略)
#           MODE - Oracle E-Business Suite が 32|64-bit コードを
#                   実行している場合、また LD_PRELOAD パス名が
#                   /usr/lib/secure にシンボリックリンクを持つ場合に指定
#                   初期値 = 32/Y
#                   (注 - 詳細は『Sun Cluster 3.1 Data Service
#                   for Oracle E-Business Suite』を参照)
#
#

```

Oracle E-Business Suite の例を示します。

```

RS=ebs-cmg-res
RG=ebs-rg
HAS_RS=ebs-has-res
LSR_RS=ebs-cmglsr-res
CON_HOST=lhost1
CON_COMNTOPTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomn
CON_APPUSER=ebs
APP_SID=PROD
APPS_PASSWD=apps
ORACLE_HOME=/global/mnt10/d02/oracle/proddb/8.1.7
CON_LIMIT=70

```

```
MODE=32/Y
```

/opt/SUNWscebs/cmgl/lib/32/libloghost.so.1 がセキュアライブラリとして動作しない場合は、MODE=32/Y を MODE=32/N に変更する必要があります。13 13 ページの「Oracle E-Business Suite のインストールと構成方法」に戻って手順 4e を参照してください。cmg\_config ファイルを編集したあと、リソースを登録する必要があります。

```
# ./cmg_register
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-CMG-resource
```

#### 14. Oracle E-Business Suite Forms Server に対応するリソースを作成します。

```
# grep PROD.FRM_COMNTOP /var/tmp/config.txt
PROD.FRM_COMNTOP=/global/mnt11/d01/oracle/prodcomm          <- FRM_COMNTOP
#
# cd /opt/SUNWscebs/frm/util
```

コメントに従って frm\_config ファイルを編集します。

# これらのパラメタは (キー=値) 形式でカスタマイズできます。

```
#
#          RS - アプリケーションのリソース名
#          RG - RS を含むリソースグループ名
#          LH - LogicalHostname SC リソース名
#          HAS_RS - HASStoragePlus SC リソース名
# FRM_COMNTOP - Forms COMMON_TOP ディレクトリ名
# FRM_APPSUSER - Forms アプリケーションユーザー ID 名
#          APP_SID - アプリケーション SID の名前
#
```

Oracle E-Business Suite の例を示します。

```
RS=ebs-frm-res
RG=ebs-rg
LH=ebs-lh-res
HAS_RS=ebs-has-res
ADM_COMNTOP=/global/mnt11/d01/oracle/prodcomm
ADM_APPSUSER=ebs
APP_SID=PROD
```

frm\_config ファイルを編集したあと、リソースを登録する必要があります。

```
# ./frm_register
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-FRM-resource
```

#### 15. Oracle E-Business Suite Report Server に対応するリソースを作成します。

```
# grep PROD.ADM_COMNTOP /var/tmp/config.txt
PROD.ADM_COMNTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomm          <- ADM_COMNTOP
#
# cd /opt/SUNWscebs/rep/util
```

コメントに従って rep\_config ファイルを編集します。

# これらのパラメタは (キー=値) 形式でカスタマイズできます。

```
#
```

```

#          RS - アプリケーションのリソース名
#          RG - RS を含むリソースグループ名
#          LH - LogicalHostname SC リソース名
#          HAS_RS - HAStoragePlus SC リソース名
# ADM_COMNTOP - Admin COMMON_TOP ディレクトリ名
# ADM_APPUSER - Admin アプリケーションユーザー ID 名
#          APP_SID - アプリケーション SID の名前
#

```

Oracle E-Business Suite の例を示します。

```

RS=ebs-rep-res
RG=ebs-rg
LH=ebs-lh-res
HAS_RS=ebs-has-res
ADM_COMNTOP=/global/mnt10/d01/oracle/prodcomn
ADM_APPUSER=ebs
APP_SID=PROD

```

rep\_config ファイルを編集したあと、リソースを登録する必要があります。

```

# ./rep_register
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-REP-resource

```

## 16. Oracle E-Business Suite Web Server (Apache) に対応するリソースを作成します。

---

注 - Sun Cluster HA for Apache の詳細は、『Sun Cluster 3.1 データサービスのインストールと構成』を参照してください。

---

```

# grep PROD.WEB_COMNTOP /var/tmp/config.txt
PROD.WEB_COMNTOP=/global/mnt11/d01/oracle/prodcomn      <- WEB_COMNTOP
#
# cd /global/mnt11/d01/oracle/prodcomn/admin/scripts/PROD
# ln -s adapcctl.sh apachectl
#
# vi adapcctl.sh (以下を追加/変更)

```

Note: The output has been realigned to fit the page

Find control\_code (/control\_code)

Modify  
-----

```

control_code="$1"

if test "$control_code" != "start" -a "$control_code" != "stop" \
-a "$control_code" != "status" ; then
printf "\n$program: You must either specify \
      'start', 'stop', 'status'\n\n"
printf "\n$program: You must either specify \
      'start', 'stop', 'status'\n\n">> $LOGFILE

```

```

        exit 1;
    fi

    To (Note: We've simply added a test to allow "configtest"
    -----

control_code="$1"

if test "$control_code" != "start" -a "$control_code" != "stop" \
-a "$control_code" != "status" \
-a "$control_code" != "configtest" ; then
    printf "\n$program: You must either specify \
        'start', 'stop', 'status'\n\n"
    printf "\n$program: You must either specify \
        'start', 'stop', 'status'\n\n">> $LOGFILE
    exit 1;
fi

# scrgadm -a -j Oracle E-Business Suite-WEB-resource \
-t SUNW.apache \
-g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group\
-y Port_list=8000/tcp\
-x Bin_dir=/global/mnt11/d01/oracle/prodcomm/admin/scripts/PROD
#
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-WEB-resource

```

#### 17. 各 Oracle E-Business Suite リソースを有効にします。

```

# scstat
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite-resource

```

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされて構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

### ▼ Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のインストールと構成の確認方法

次の手順で、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite が正しくインストールされ、構成されているかどうかを確認します。

1. **Oracle E-Business Suite** のホストとなるクラスタノードの 1 つで、スーパーユーザーになります。

2. すべての **Oracle E-Business Suite** リソースがオンラインになっていることを **scstat** で確認します。

```
# scstat
```

オンラインになっていない Oracle E-Business Suite リソースごとに、次のように **scswitch** コマンドを使用します。

```
# scswitch -e -j Oracle E-Business Suite- resource
```

3. **scswitch** コマンドを実行し、**Oracle E-Business Suite** リソースグループをほかのクラスタノード (*node2* など) に切り替えます。

```
# scswitch -z -g Oracle E-Business Suite-failover-resource-group -h node2
```

---

## Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターの概要

この情報は、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターを理解するうえで役立ちます。ここでは、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターのプローブアルゴリズムまたは機能について説明し、プローブの失敗に関連する条件、メッセージ、回復処理を示します。

障害モニターの概念については、『*Sun Cluster 3.1 の概念*』を参照してください。

### リソースプロパティ

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite 障害モニターでは、**SUNW.gds** というリソースタイプと同じリソースプロパティを使用します。使用するリソースプロパティの全リストについては、**SUNW.gds (5)** のマニュアルページを参照してください。

### プローブアルゴリズムと機能

#### ■ Concurrent Manager Server

- **Thorough\_probe\_interval** の間、休止します。
- 少なくとも 1 つの **FND (Concurrent Manager)** プロセスが **CON\_APPUSER** に対して動作しているかどうかをテストします。テストが失敗した場合は、プローブによって **Concurrent Manager Server** リソースが再起動されます。
- **Oracle** データベースに引き続き接続できるかどうかをテストします。テストが失敗した場合は、プローブによって **Concurrent Manager Server** リソースが再起動されます。

- 許容される最大並行プロセス数に対する割合として、実行中の並行プロセス数を計算し、その割合が Concurrent Manager Server 定義時の CON\_LIMIT 未満かどうかをテストします。割合が CON\_LIMIT に満たない場合は、プローブによって Concurrent Manager Server リソースが再起動されます。
  - すべての Concurrent Manager Server プロセスが終了している場合は、pmf がプローブに割り込み、Concurrent Manager Server リソースがただちに再起動されます。
  - Concurrent Manager Server リソースが繰り返し再起動され、最終的に Retry\_interval の Retry\_count が 0 になると、別のノードでそのリソースグループのフェイルオーバーが開始されます。
- **Forms Server**
- Thorough\_probe\_interval の間、休止します。
  - f60srvm プロセスが FRM\_APPUSER に対して動作しているかどうかをテストします。f60srvm が検出された場合は、f60webmx プロセスが動作しているかどうかをテストします。f60webmx が検出されなかった場合は、再テストを実行し、f60webmx がないことを再度確認します。これは、f60srvm が通常、f60webmx を再起動するからです。2 回続けて検証しても f60webmx がない場合、またはどの検証でも f60srvm が検出されない場合は、プローブによって Forms Server リソースが再起動されます。
  - Forms Server リソースが繰り返し再起動され、最終的に Retry\_interval の Retry\_count が 0 になると、別のノードでそのリソースグループのフェイルオーバーが開始されます。
- **Report Server**
- Thorough\_probe\_interval の間、休止します。
  - rwmts60 プロセスが REP\_APPUSER に対して動作しているかどうかをテストします。これに失敗すると、プローブによって Forms Server リソースが再起動されます。
  - Report Server リソースが繰り返し再起動され、最終的に Retry\_interval の Retry\_count が 0 になると、別のノードでそのリソースグループのフェイルオーバーが開始されます。

---

# Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグ

## ▼ Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグを有効にする方法

ここでは、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグを有効にする方法について説明します。

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite は複数の Oracle E-Business Suite インスタンスで使用できます。デバッグは、すべての Oracle E-Business Suite インスタンスに対して有効にすることも、特定の Oracle E-Business Suite インスタンスに対して有効にすることもできます。

各 Oracle E-Business Suite コンポーネントは、`/opt/SUNWscebs/xxx/etc` に `DEBUG` ファイルがあります。xxx は個々の Oracle E-Business Suite コンポーネントを表す 3 文字の略語です。

これらのファイルによって、Sun Cluster の特定のノードで特定の Oracle E-Business Suite インスタンスに対してデバッグを有効にすることも、またはすべての Oracle E-Business Suite インスタンスに対してデバッグを有効にすることもできます。Sun Cluster 全体にわたって、Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite のデバッグを有効にしなければならない場合は、Sun Cluster 内のすべてのノードでこの手順を繰り返す必要があります。

### 1. `/etc/syslog.conf` を編集します。

`/etc/syslog.conf` を編集し、`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更します。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.notice;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                   operator
#
```

`daemon.notice` を `daemon.debug` に変更し、`syslogd` を再起動します。次に示す `grep daemon /etc/syslog.conf` コマンドの出力例では、`daemon.debug` が設定されています。

```
# grep daemon /etc/syslog.conf
*.err;kern.debug;daemon.debug;mail.crit      /var/adm/messages
*.alert;kern.err;daemon.err                   operator
#
# pkill -1 syslogd
#
```

### 2. `/opt/SUNWscebs/xxx/etc/config` を編集します。

必要に応じて、Sun Cluster の各ノードで、xxx コンポーネントに対してこの手順を実行します。xxx は個々の Oracle E-Business Suite コンポーネントを表す 3 文字の略語です。Concurrent Manager Server リソースで、cmg コンポーネントに対してデバッグを有効にする例を示します。

/opt/SUNWscebs/cmg/etc/config を編集し、DEBUG= を DEBUG=ALL または DEBUG= リソースに変更します。

```
# cat /opt/SUNWscebs/cmg/etc/config
#
# Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.
# Use is subject to license terms.
#
# Usage:
#     DEBUG=<RESOURCE_NAME> or ALL
#
DEBUG=ALL
#
```

---

注 - デバッグを無効にするには、この手順を逆に実行して下さい。

---



# 索引

---

## C

C ロケール, 19

## O

Oracle E-Business Suite, 6

## V

/var/sadm/install/logsディレクトリ, 20

## W

Web Start プログラム, 19

## い

インストール

Oracle E-Business Suite

Concurrent Manager

listener.oraファイルの変更, 14

libloghost.so.1用のシンボリックリンクの作成, 16

rapidwiz を使用, 13

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite

Web Start プログラムを使用, 19

作成されるログファイル, 20

## か

確認

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite  
のインストール, 27

Oracle E-Business Suite のインストール, 17

## こ

構成

制限事項, 7

要件, 9

コマンド

scinstall, 20

scrgadm, 21

scstat, 27

scswitch, 22

## し

障害モニター, 28

## す

スクリプト

cmg\_register, 24

copy\_env, 23

frm\_register, 25

rep\_register, 25

て  
デバッグ, 30

と  
登録

Sun Cluster HA for Oracle E-Business Suite  
Concurrent Manager リスナーリソース, 23  
Concurrent Manager リソース, 24  
Forms Server リソース, 25  
Oracle データベースリソース, 22  
Report Server リソース, 25  
Web Server (Apache) リソース, 26  
リソースタイプ, 21

ふ  
ファイル, インストールログ, 20

ろ  
ログファイル, インストール, 20  
ロケール, 19